



ベルおばさんが消えた朝

ホワイト作 光野多恵子訳 徳間書店

わたしの名前はジプシー、十二歳。いちばんの望みは、お尻まである髪をうんと短く切ること。ときどき、髪に隠されて、自分が透明人間になったような感じがするの。

いとこのウッドローの望みは、斜視を治すことと、半年前の明け方にいなくなった母さんが無事帰ってくること。

隣にひっこしてきたウッドローが

ら、ベルおばさんがいなくなったときの話は聞きたくてうずうずしていたジプシーですが、自身も亡くなった父親のことで、つらい気持ちをかかえていたのです。

